

平成28年度 事業報告



千葉科学大学

「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる人材の養成を行う



- 1、学生のニーズに適切に対応できる教育・研究体勢の構築を図ります。
- 2、激変する社会・経済等外部環境を踏まえ、グローバルな視点で既存のプログラムを再検討します。
- 3、地域に貢献し、地域の協力・支持を得られる大学を創ります。

千葉科学大学 学長 木曾 功

教育の充実

■FD活動の推進

学生による授業評価アンケート、教員対象のFD講演会、教員相互に行う公開授業及びFD活動に関する意見交換会などを実施し、FD活動を推進しました。

■大学間連携共同教育推進事業

昨年度に引き続き本学と千葉大学及び城西国際大学による5つのプログラムにおけるeラーニング及び演習を各大学にて実施し（本学主管演習は8月実施）、2月に受講修了学生による成果発表会を千葉大学にて開催しました。なお、この事業は平成29年度で終了予定です。

■留学生対象日本語補習講座の開講

1年次生の留学生を対象に1年以内の日本語能力検定2級合格を目標とした補習講座対象者18名に対して3ヶ月間で18回開講しました。

■社会人大学院サテライト教室（東京）

社会人の学び直しに応えるため、在職したままで学位取得の可能な「大学院危機管理学研究科サテライト教室」を開講し、危機管理学をワン・ストップで総合的に学び、修士、博士の学位が取得できる大学院教育を推進しました。

■地域志向科目の必修化

銚子地域を学習する科目「銚子学」については、危機管理システム学科から始まり、全学部必修化を順次、行っていきます。

■24時間利用可能な図書館棟の増築

現図書館の横に2階建（600㎡）を増築（9月末竣工）し、学生の学習環境を充実させました。1階は国試対策のため24時間開放し、個別学習室やラーニングcommons室を設置し、対話型学習が可能な図書館となりました。



研究の充実

■薬学部

薬学部では、新年度の研究活動を充実する目的で、科学研究費の応募をこれまで以上に増やし採択数の増加に繋がっています。また、科学研究費以外の外部研究費も可能な限り応募し研究環境の向上を目指しています。また、本年度は共通機器として「細胞イメージ解析装置」を購入し、最先端の機器を使用することでさらなる研究活動の向上を図りました。

■看護学部

開設3年目を迎えた看護学部では、4名の教員が科研代表者となり研究を進めました。種目は、若手B1題、基盤C2題、挑戦的萌芽1題です。

また、開設初年度より、千葉県北東地区・茨城県南東地区並びに実習施設の看護実践者（看護師・保健師・養護教諭）と本学部教員により看護実践研究会を発足し、実践現場の課題に着目した研究活動を行っており、今年度も本学において5月21日に研修会（参加者92名）を開催し、11月に研究発表

会を開催しました。

■大学院の充実

学部学生の大学院進学説明会の開催や積極的な研究室の紹介により、大学院への進学率の向上に努めました。

■科学研究費助成事業等獲得の推進

全教員に対し、科学研究費助成事業、厚生労働科学研究費、受託研究、共同研究事業などの外部資金を獲得することを積極的に推進しました。また学外連携ボランティア推進室が中心となり、そのための情報収集と教員に対する説明会開催ならびに申請の際のバックアップ体制を整え、より多くの外部資金獲得を目指しました。

■教育研究経費（学内科研費）の活用

学内科研費を設定し、優れた研究内容で研究意欲の高い教員や大学院生に対し、研究支援を行いました。また、項目を定め、特色ある研究に対し、重点的に予算配分を行い、研究の推進を図りました。

■好適環境水を利用した研究の推進

好適環境水を利用したふぐ等の海水魚の新たな養殖方法の研究や好適環境水が持つ魚類病原菌抑制作用の研究を行いました。

■私立大学研究ブランディング事業

文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に本年度申請し、採択されました。

事業名：「フィッシュ・ファクトリー」システムの開発及び「大学発ブランド水産種」の生産
事業期間：5年

設置・改組

■危機管理学部

危機管理学部では、環境危機管理学科の中に風力発電コースを新たに設置し、風力発電に関する総合的な知識と技能を身に付けたエンジニアを養成します。工学技術危機管理学科を航空技術危機管理学科に名称を変更し、エアラインパイロットプログラムコースの充実を図りました。

また、危機管理学を1つの学術分野として確立させることを目的とした「総合危機管理学会」を設立し一般会員、団体会員、賛助会員、学生会員を募りました。

■大学院看護学研究科看護学専攻修士課程

平成29年度に本学看護学部が完成年度を迎えるにあたり、より高度な保健・医療・福祉の質の向上に広く貢献する看護職を育成する大学院として、本学大学院に看護学研究科の設置申請を行いました。

学生支援

学生に対する就職支援、キャリア支援、各種資格取得支援、就職先企業の開拓などを行っています。特に、地元出身学生の増加に合わせて、地元及び周辺地域企業に重点を置いて開拓を継続しました。

■就職支援

3年次生を対象に、就職活動を進める上で必要なテーマを取り上げる就職ガイダンスや、様々な業界を知る業界セミナーを学内で開催しました。

また、3年次生（薬学科は5年次生）全員との個人面談を実施し、個別指導を行いました。

■インターンシップ

企業等に学生を派遣するインターンシップに取り組み、夏期に1週間から2週間の就業体験を実施しました。（37事業所に学生73名派遣）

■合同業界研究会

各事業所の担当者と本学学生がブース別に面談し、それぞれの事業所の仕事内容についての説明会を学内で開催しました。

■キャリア支援

キャリア支援科目にスタッフを派遣し自己理解やコミュニケーションの重要性などを学生に伝えました。

■公務員試験対策

2月から3月にかけて公務員採用試験の筆記対策として基礎講座（主に1・2年次対象）、実践講座（3年次対象）を開講しました。また、学内にて面接対策セミナーを実施しました。

8月から翌年2月～3月にかけて公務員採用試験対策講座（ハイグレード講座）を実施しました。この講座は、主に地方上級職、国家一般職を目指す学生を対象として選抜試験を実施し対象学生を選出しました。業者主催の公務員模擬試験を学内で実施しました。

■就職先企業開拓

様々な業種の企業を新たに訪問し、就職先の開拓を行いました。特に銚子及び神栖市周辺の地元企業の開拓に努め、神栖市内で就職懇談会を開催しました。また、加計グループの就職懇談会（東京、大阪、広島）を開催しました。

■各種資格取得支援

防災士、危険物取扱者などの試験対策講座を開講し、資格取得試験を学内で実施しました。

■生活支援

新入生・在学学生オリエンテーションや各種奨学金の説明会・アパートの紹介など学生の日々の生活に関連する支援を行ってきました。特に通学路の夜間の安全を守るため、銚子市等に働きかけ、街灯の設置を実現しました。

■留学生支援

新入生オリエンテーションから日本語や日本の文化に慣れるように在学留学生の協力を得て新入生への指導を行いました。

- ・ 一日研修旅行 11月14日実施
留学生19名、日本人学生7名参加
- ・ 加計杯日本語弁論大会 11月6日開催
(於：吉備国際大学)
本学代表が3年連続総合優勝

社会連携・社会貢献

■地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

「防災・郷土教育を積み上げた、人に優しく安心して住める地域創り」は本学による地域社会貢献事業です。平成26年度、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」に採択され、地域活性化の中核を担う大学として人材の育成や地域の振興に取り組んでいます。さらに「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に参加し、これまでの取り組み実績を活用して地方創生を推進しました。

■CISフォーラム

有識者による講演会を開催し、大学、企業の担当者が研究成果やシーズを紹介し、産学連携を推進しました。

- ・ 10月8日開催
参加者212名、出展事業社114社



■ボランティア活動

社会に貢献しながら学ぶ体制を確立するために、学生団体や一般学生にボランティアや地域貢献に関する情報を提供し、参加する仕組みを整備し、円滑

なボランティア活動を支援しました。熊本災害ボランティアをはじめとして18種類のボランティア活動に延べ174名が参加しました。

■銚子ジオパーク

銚子ジオパークとして認定を受けた屏風ヶ浦の地層犬吠埼の浅海堆積物(共に国指定天然記念物)などを観光資源として活用すると同時に地域住民及び地元の小中学生、高校生には、これらを活用した郷土教育を行うことにより、地元に対する愛着を育成し、「地育地就」にも貢献しました。

■図書館の地域市民への開放

開学以来、図書館を地域、市民の皆様に開放し、本年度は図書館報を発刊し、市民との連携を深めました。

■市民公開講座の開催

平成24年から引き続き、本年度も大学主催の市民公開講座を年6回開催しました。

第1回(93名)、第2回(60名)、第3回(88名)第4回(112名)、第5回(89名)、第6回(95名)、合計537名の市民の参加がありました。

■教員免許状更新講習の実施

地域からの要望により、昨年に引き続き8月6日から8月10日にかけて教員免許状更新講習を実施しました。

■日本語能力検定試験

本学が日本語能力検定試験会場となり、年2回実施し、第1回目は7月3日に実施し2回目は12月に実施しました。

■教育提携校と関係強化

今年度は協定を締結した高校との相互関係を一層強化できるよう学生・生徒の研究発表等の開催や高校教員との意見交換会(高大連携推進協議会、高大連携教育研究交流会)を行いました。

■出張講義の拡大と内容の充実

高等学校への出張講義の実施回数を増やしました。また、知の拠点としての大学の機能を更に発展させていきます。

■English Camp（高校生対象）

銚子市内にある高等学校に通う1・2年生の生徒を対象に本学において3月27日・28日の2日間を通して英語セミナー(会話を中心)実施しました。

■千葉科学大学おうえん協議会が発足

銚子市内及び近隣の有志による「千葉科学大学おうえん協議会」が発足しました。

国際交流

■海外からの研修団受入

7月	アメリカ研修団 フィンドリー仕事体験生終了
9月	フィンドリー大学より仕事体験生受け入れ
11月～ 12月	ポルトガル語講座 開講

■海外へ研修団派遣

8月	ライト大学へ海外研修団派遣
	フィンドリー大学へ海外研修団派遣
2月	台湾へ海外研修団派遣
	韓国へ海外研修団派遣

■特別科目等履修生受入

秋学期（9月）より、危機管理学部に学生1名を受け入れました。

教育研究環境

■ネットワーク基盤システムのリプレイス

ネットワーク基盤(サーバ)のリプレイスを行い、

Windows10への対応環境を構築し、学生が携帯するPCを積極的に活用できるよう、ネットワーク教育環境を充実させました。

■キャンパス美化

学内のキャンパス美化について、①学生・教職員の美化意識の向上②施設のメンテナンスの実施③アウトソーシング部分の見直しを図り、各種委員会ならびに各部署と協力しながら、全学的にキャンパス美化を推進していきます。

■省エネの推進

学内の省エネについて、①省エネに取り組める体制作り②学生・教職員の省エネ意識向上③省エネ設備、器具等の導入の計画等、大学全体で取り組むべき課題であることを認識し取り組みました。

学生の受入

■入試方法等

AO入試において、従来のエントリー制を廃止し、入学願書の出願（自己アピールを含む志望の理由等の課題、高校の調査含む）の後、面接と書類審査で合否判定を行いました。

昨年から導入したインターネット出願を積極的に利用するようPRしました。

■オープンキャンパス

各学部・学科イベント時間帯に、参加者が複数の学科等を訪問しやすいタイムスケジュールとしました。全体会を看護学部棟の大講義室で開催し、盛況感のあるイベントとし、参加した高校生が、「この大学で、この学科で、この研究室で、こんな勉強をしてみたい」という夢と希望を持つだけでなく、実現に向けた手伝いができるような内容を企画しました。

内部質保証

■FDワーキンググループ

FDワーキンググループは、春学期・秋学期4回の学生による授業評価アンケート、年数回のFD講演会、公開授業および意見交換会などを継続して実施し、学生の満足度を向上させる教育改善を目指しました。今年度は7月に授業参観を行い、教授会開催日に意見交換会を実施しました。

■認証評価機関による認証評価の受審準備

第2期 大学評価（認証評価）受審に向け、千葉科学大学学点検・評価報告書（案）の作成等準備を進めていきます。

主な行事

4月4日	新入生オリエンテーション
4月5日 ～6日	新入生宿泊研修
4月7日	入学宣誓式
4月8日	在学生春学期オリエンテーション
5月29日	オープンキャンパス
7月2日	別科・特別科目等履修生入試
7月16日 ～17日	オープンキャンパス
7月30日 ～8月10日	春学期定期試験
8月6日 ～10日	教員免許状更新講習会
8月7日	オープンキャンパス
9月10日	教育進路懇談会（地方）
9月17日	教育進路懇談会（本学）
9月18日	オープンキャンパス
9月20日	秋学期オリエンテーション
10月8日	C I Sフォーラム
11月12日 ～13日	青澄祭（大学祭）
11月29日	就職懇談会（東京会場）
12月10日 ～11日	合同業界研究会
12月17日	病院研究会
1月24日 ～2月4日	秋学期定期試験
2月27日	就職懇談会（広島会場）
2月28日	就職懇談会（大阪会場）
3月25日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成28年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数				
			留学生	社会人		留学生	社会人			
大 学 院	薬学研究科（博士一貫）	3	0	0	12	2	0	0		
	薬学研究科（博士）	5	0	0	15	1	0	0		
	薬学研究科（修士）	10	4	0	20	5	0	0		
	危機管理学研究科（博士）	3	1	0	9	4	0	4		
	危機管理学研究科（修士）	5	10	0	10	15	2	3		
	大学院 計	26	15	0	4	66	27	2	7	
学 部	薬 学 部	薬学科（6年制）	120	102	14	0	720	657	36	1
		薬科学科 (募集停止)	—	—	—	—	0	2	0	0
		生命薬科学科	40	8	1	0	160	81	5	0
		計	160	110	15	0	880	740	41	1
	危 機 管 理 学 部	危機管理システム学科	100	88	11	0	400	353	48	0
		動物・環境システム学科 (募集停止)	—	—	—	—	0	3	0	0
		環境危機管理学科	40	14	1	0	160	92	3	0
		医療危機管理学科	80	74	0	0	320	321	1	1
		工学技術危機管理学科	40	12	2	0	160	33	5	0
		動物危機管理学科	40	21	0	0	160	114	0	0
		計	300	209	14	0	1,200	916	57	1
	学 看 部 護	看護学科	80	97	0	0	240	274	0	0
		計	80	97	0	0	240	274	0	0
学部 計		540	416	29	0	2,320	1,930	98	2	
総合計		566	431	29	4	2,386	1,957	100	9	
留学生別科		40	8	8	0	40	18	18	0	

(単位：人)

■卒業者数等一覧

(平成28年度)

区分	修了者・ 卒業者	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	8	5	5	100%	1	0	1	1
学部	300	224	208	93%	15	90	23	190

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成29年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	ウエルシアホールディングス(株)、クオール(株)、農林水産省畜産系技術職員、茨城県職員(病院局)、戸田中央医科グループ、日本医科大学付属病院、東京消防庁、横浜市消防局、松戸市消防局、札幌市消防局、銚子市消防本部、警視庁、千葉県警察本部、茨城県警察本部、神奈川県警察本部、栃木県警察本部、自衛隊、日本郵便株式会社、銚子商工信用組合、鴻池運輸株式会社、(株)アピスト、イオンペット(株)、東急セキュリティー(株)、(株)FMGエアサービス
-------	---

■教職員数

(平成28年5月1日現在)

学長	副学長	教授※	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	2	75	18	23	12	8	1	140	52

※大学院教授1名含む

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

年度		28年度	前年度
科目		決算額	決算額
教育活動収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	3,045,993	3,110,064
	経常費等補助金	371,101	352,671
	その他収入	139,010	192,753
	計	3,556,104	3,655,488
支出	人件費	2,338,952	2,268,330
	教育研究経費	1,194,251	1,343,844
	管理経費	415,406	409,061
	その他支出	1,219	1,335
	計	3,949,828	4,022,570
教育活動収支差額		△393,724	△367,082
教活外	収入		
	受取利息等	5	86
	支出		
借入金利息等	4,679	5,307	
教育活動外収支差額		△4,674	△5,221
経常収支差額		△398,398	△372,303
特別	収入		
	資産売却差額等	2,268	4,606
	支出		
資産処分差額等	1,549	55	
特別収支差額		719	4,552
基本金組入前収支差額		△397,679	△367,752
基本金組入額合計		△353,472	△69,394
当年度収支差額		△751,152	△437,146

■施設設備整備事業

(単位：千円)

事業名	金額
図書館増築工事	236,067
体育館防水改修工事	13,462
クラブハウス棟防音対策工事	1,200
第4期ネットワーク基盤システムリプレイス事業 [機器]	36,518
第4期ネットワーク基盤システムリプレイス事業 [ソフトウェア]	6,682
図書館増築部への教具及び校具	27,000
細胞イメージ解析システム	14,796
看護学部看護学科図書購入 (創設費)	2,500